

## 同窓生ギャラリー

第87回

平成26年4月12日(土)～5月6日(火)

工芸建築科同窓会・  
作品展2014

61年の歴史を刻む、高岡工芸建築科・卒業生は、2,300名を超え県内の建築界を牽引する。2014の出品内容は、参加者35名の建築作品が展示された。

建築家って何？ オークストラの指揮者！ 杭、基礎、躯体、建具、内装、外装、設備（給排水・空調・電気）など、さまざまな工事の内容、工程をしつかり監理、チェックして、建物を完成させる工事監理の業務は、設計業務とともに建築士の重要な業務です。指揮者が、オークストラを指揮して美しいハーモニーをつくり出すのと同じです。

このコンセプトに基づき、町の景観や時代のニーズに即した建築郡のパネルやモデリングが発表され、各メーカー所属の建築士が特徴ある住まいを開発、競い合う設計が目を引きつけた。また、「三世代が豊かに住まう団地づくり」と題して、集合住宅の設計では、集合所、広場を中心とした囲み型の住棟配置とし、見守られる安心感を創り出した。

保育園、警察署、校舎、自動車販売店舗、有形文化財の修復など、

建築の多様性を知ると同時に本校建築科卒業生のすばらしさを再発見する会場となった。



第88回

平成26年5月10日(土)～5月25日(日)

## 第7回青湧会展

十人十色—それぞれの色・形  
そして感動のワンシーン

絵画(日本画・洋画・水彩画)・工芸(乾漆・陶芸)・写真・ブリザードフラワーのジャンルに会員16名、展示作品は53点。昭和33年に本校窯業科を卒業した、太田紀久雄(蒼久)氏が代表を務めるグループ。

平成20年に発足、今年、第7回展を迎えた。出品者の中から作家と作品を紹介。本校の窯業科卒業から50年になる陶芸家・奥川克臣氏は個人の窯を小矢部市に築いて39年目、瀬戸焼・三島焼などの研究を重ね県内陶芸家の重鎮として活躍。今回出品の「三島丸壺」や「黄瀬戸水差」は、古窯を思わせる技法と釉薬が息づいている。代表の太田蒼久氏は、新しい試みの作品に挑戦、水墨画に立体的要素を入れ、松林を墨で、海と島を丸窓にくり貫いて描き、リアルな蝶を留まらせるなど、技法を駆使した作品を発表。須賀忠道氏と後谷美樹男氏は、水彩画を出品、風景・静物をリアルに描写、空気を感漂う作品で魅了。

(十人十色)とサブタイトルに謳っている、各々の個性溢れる作品群が会場で響き合う様、青湧会の未来に喝采。



第89回

平成26年5月31日(土)～6月15日(日)

(会期延長6/29まで)

上野博之  
グラフィックアート展

上野博之氏は、本校デザイン科一期生として昭和39年に卒業、卒業から半世紀、母校の美術館で作品展を開催。

本校卒業後、デザイン専門の大学に進む、卒業後、民間企業のデザイナーナートとして活躍、昭和61年に上野博之デザイン室設立、フリーデザイナーの道を歩む。

『GaA・上野博之グラフィックアート展』と題した今回の作品群は、30年に及ぶグラフィックデザインの作品(ポスター、装丁、パッケージなど130点余)とライフワークとして取り組んでいる「平仮名」をモチーフとした越中万葉シリーズ、デジタル版画(ドローイング技法)40点を展示。

環境問題をテーマとした、ポスターコンペ作品「Green killer II」シリーズは、日本デザイナー協会員のなかで高い評価を受け、ドイツの美術館にコレクションされるなど反響を呼んだ。

グラフィックデザイナーとして、革新的な仕事を手がける一方、学生時代から強い思い入れのあった「絵画」に挑み、越中万葉や俳句をモチーフに描く、和歌・句の「平仮名」文字を組み入れ、オリジナル絵画を創り出す、これからも楽しみなマルチ作家です。



第1回

平成26年 8月8日(金)～8月30日(土)

第4回

フェローアート展

フェローアートとは、「同窓、仲間間の美術」を意味する。本校の図案絵画科・デザイン科の卒業生で県外在住作家8名が4年ごとに開催。刀祢悦子(33卒・油彩)、宮越清光(34卒・日本画)、八田敏郎(36卒・アクリル画他)、志永勇(37卒・陶芸)、玉上佑子(38卒・油彩他)、板倉保(39卒・油彩)、林良一(39卒・ミクストメディア)、古藤健二(43卒・水彩)の各氏が、望郷の思いや地域との新たな交流への期待を寄せ、母校の在校生との交流をも深めることを目的に開催されました。

出品者は首都圏や関西などに在住。定年退職後の創作活動で各種展覧会への出品や入賞を重ね、完成度の高い、個性溢れる作品100余点が展示された。賛助出品は、恩師の池上栄一先生、近作の中から大作の「花器」などの出品があり美術館全館にレベルの高い秀作郡を視ることができた。



第2回

平成26年 9月6日(土)～9月28日(日)

第7回

夢散歩展

洋画部門の磯部正子、本郷正典、田村紀子、豊本外良、岡山 寛・陶芸の草島誠一・写真の磯部敏彦の各氏が個性豊かな作品を発表。

代表者の豊本氏(昭和43年電気科卒)は、縦8.8寸・横3.6寸の大幅面に白黒でパイプやメカニック物体などを描き、メランコリーな世界を創る。また、出品者で最年少(30歳代)の本郷正典氏は、赤と黒の油絵の具を主に用い、取り巻く社会の矛盾、虚無感や孤独感を表現、日常社会を比喻しつづける作品を発表。陶芸の草島氏は、シンプルな造形・お椀型や一輪挿しの形状に飴釉、白釉掛けし同型のかたちを数点組展示。磯部、田村両女子は、油彩作品を出品、擬人化した樹木など不思議な世界を描く。岡山氏の仏画など全体で50点余の作品展示があった。



平成26年度 コレクション I

平成26年 5月10日(土)～7月30日(日)

花・鳥・展

今回の当館コレクション展示は、絵画や漆芸・金工・染織などの工芸品に描かれた華やかな花鳥の美を紹介しました。百代のさきかげといわれる「梅」、日本の春を象徴する「桜」、花の王者「牡丹」また、中国の伝説上の霊鳥である「鳳凰」、長寿を象徴する吉祥の鳥の「鶴」をはじめとする様々な鳥類の世界を紹介。「花」の輝きは、自然の生命力であり、またそのはかなさを象徴しています。展示作品24点から代表的な作品3点を紹介。中国・南宋時代の画院画家、梁楷のようかい「鸛図」作品は、円形の小画面に破墨の技法鋭く、虎視眈々と水面を静止する鸛と断崖の上空高く、翼をひろげ飛翔する鸛を水墨で激しく緻密に描く、800年余の時を経た水墨画の逸品。本校卒業の日本画家、郷倉千初「生」は、親鳥の慈愛に満ちた心が作品の彩色・表情に強く現れる、郷倉画伯の最晩年の傑作。江戸後期、高岡に生まれた金工家、中杉与三「林中に鳥花花瓶」は、対の花瓶(それぞれ鷹が向き合い)、花木と合いまった図案で、青銅色の地に金・銀・赤銅・四分二で平象嵌を駆使した秀作。「花」「鳥」と題してコレクションを紹介しました。



平成26年度 コレクション II

平成26年 9月6日(土)～11月3日(月・祝)

油絵 (油彩画) 展

油彩画は、絵具を溶かし、固着する媒材に、植物から採取された乾性油を使用する。こうした技法は、15世紀の前半にオランダ、ベルギー地方で考案され、イタリアに伝わった。17世紀になると、明暗法など、油彩画特有の技法的可能性の開拓がなされ、技術的にも頂点をきわめる。日本へは、明治初期に原田直次郎、黒田清輝らが欧州から西洋画を学び帰国、油彩画が普及する。本校は、明治32年に図案絵画科が置かれ、油彩画の教育が進められた。今回のコレクション展では、図案絵画科を大正5年卒業の「関 亀次郎」「ヘタ日川べり」の油彩画を初め、本校の教諭・卒業生の秀作から22点の歴代学校長の肖像画に視るようリアルな油彩画やあざやかなモダンアート作品、技法を駆使したシルクスクリーン



を展示。作品など多様な作品郡が見られた。

丸井創業者 青井忠治氏の四男  
青井忠四郎氏 (株アトム社長)

## 一行来館

6月5日の午前、当美術館設立や蔵書の寄贈に大きく貢献された(株)丸井の創業者・青井忠治氏の四男である青井忠四郎氏と社員15名が当館を訪問された。

青井忠治氏の揮毫された「すべて汝がことなれ」の色紙や遺品など時間をかけて見学され、お孫さんにあたる方は、胸像を見て「この像の姿は何歳の時かな？」と感慨深げでした。また、本県出身の彫刻家佐々木大樹氏(日展評議員)を大叔父に持つ同社役員の谷井陸弘氏は、再度の訪問で佐々木大樹作品の解説を行われるなど、一行の訪問は印象深いものであったと思われる。



(青井記念館美術館長 山本 實)

## 文化部合同展 2014

平成26年 7月9日(水)～7月30日(木)

恒例となった文化部合同展が開催されました。前期のクラブ活動成果を発表する場として毎年一学期末に開催されています。今年度は、美術部など芸術系8部、電子機械部の工学系4部、約170点の作品を一堂に展示しました。絵画・デザイン・イラスト・デッサン・陶芸などに挑んだ生徒、ロボット時代の研究の基礎をかたちに製作したメカ。会場は若い芸術家・エンジニアの作品で息吹満ちる。



## 尚美展関連「同窓生作品展」

よりの高さを求めてやまない「尚美精神」を掲げ、107回の尚美展を迎えました。当館では、現在県内外で美術作家として活躍の同窓生作品を展示しました。昭和20年金工科卒業の般若茂雄氏から平成23年デザイン科卒業の高田 望さんまで、80才代～20才代と幅広い年齢層の創作作品が発表された。日本伝統工芸展・金工部会員の般若 保氏の作品は、近年、国際的に評価され米国の美術館などにコレクションされた。また、院展作家・道吉勝重氏は、作家活動60余年に及び、空気感みなぎる立山連峰「雄山」(日本画)を描いた。他に若い感性あふれる作品など、23作家・37作品の展示がありました。



平成26年 10月4日(土)～11月3日(月・祝)

## はぐくみ会会員募集のお知らせ

はぐくみ会では会員を募集しています。申し込みました日から一年間会員となります。

- 主な活動
- ・青井記念館美術館への協力・支援
  - ・中学生美術展(青井中美展)への支援

- 特典
- ・企画展等の案内
  - ・はぐくみ会だよりの配布

年会費  
一般会員(個人) 二,〇〇〇円  
特別会員(企業、団体等) 一〇,〇〇〇円  
お問い合わせ・申し込み先  
青井記念館美術館はぐくみ会事務局

## 編集後記

同窓生ギャラリーも90回を超え、毎年多くの同窓生の方々に美術館を利用して頂いています。本年度も初めて展覧会を開催された方をはじめ、毎年定期的に開催される方々、4年に一度開催される方々など、多くの同窓生の方々とお会いする事が出来る度、本来なら学校を卒業してしまえば疎遠になりがちな母校が、改めて青井記念館美術館は工芸高校と同窓生を繋ぐ場になっているのだと嬉しく思います。また、收藏品も同窓生や旧職員の作品が多く、展示された時に見られた方から作品や作家さんとの思い出話などを聞くと、時間も繋がっているのだと実感致します。全国的にも類を見ない美術館のある高校として、同窓生の方々にだけでなく、在校生や生徒達にもっと青井記念館を知って貰い、卒業後も大いに活用して頂けるように、美術館の運営と管理・企画に努めて参りたいと存じます。(中野 雅恵)

## 編集発行

富山県立高岡工芸高等学校  
青井記念館美術館はぐくみ会

住所 番 933-8518 高岡市市川一丁目二〇  
TEL (〇七六六) 二一六一三〇(内線 611)  
FAX (〇七六六) 二一六一三二